

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホーム棟 1階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0193600350-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の影響で外出や地域交流は自粛しておりますが個別での散歩や畑での作業、ガラス越しの地域園児との交流などできる活動を継続しています。ホーム内でも季節を感じられるよう装飾や季節の行事を毎月開催しています。一人一人のペースや好みを尊重しホームでの生活がその人らしく暮らせるよう共に生活を目標にしています。
また、日常の様子をご家族様にお伝えできるよう、通信の発行やブログも活用しています。近隣に協力医療機関があり冬でもロードヒーティングが備わっていますので安心して通院することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム棟」は、JR青葉駅近くの静かな住宅地に立地している。近隣には公園やコンビニエンスストア、協力病院もあり医療面も充実した事業所である。建物内は光庭を中心に居間と食堂が分かれている開放感のある造りで、壁には利用者の写真や季節の装飾がさり気なく施されており、家庭的な温もりが感じられる。今年度新たに就任した管理者を中心に、全職員で利用者一人ひとりに寄り添い、利用者ができることを引き出しながら元気に落ちついた生活が継続できるように細やかな支援を行っている。感染症の流行により家族との面会が難しくなったため、「ほのぼのの柵」便りと一緒に職員のメッセージや利用者本人の手紙を添えるなど工夫した取り組みを行っている。地域交流の面では、保育園と情報交換しながら感染症流行の中でも園児と交流できる方法を検討し、ハロウィン時に窓越し面会をしたり園児の散歩時に挨拶を交わしている。食事面では、毎月フリーメニューの日を設けて利用者の好きな物を楽しんだり、行事に合わせて寿司やお弁当を味わっている。感染症流行前に実施していた個別外出が難しいため、利用者の好きな特産品を購入して懐かしい味を楽しむなど新しい取り組みも行っている。利用者の状況報告や感染状況に応じた面会など細やかな対応は家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に目の届くところに掲示し実践を心掛けております。	地域との交流を大切にして、その人らしく暮らせるように支援するという内容の事業所理念を作成し、玄関や事務所に掲示している。入職時に説明して全職員に携帯カードを渡している。地域交流など、会議内容に応じて理念を再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり実践できていませんでしたが昨年ガラス越しに園児との交流をすることができました。広報や町内会からの毎月のお便りを利用者様にも目を通してもらっています。	感染症の流行によりボランティアや地域住民と交流する機会はなかったが、管理者が年末の挨拶に出かけて地域交流の継続に努めている。保育園と情報交換しながら、窓越し面会や散歩時の挨拶など可能な交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には挨拶をし近況を聴くなどしています。様子に変化の見えた時は包括支援センター繋ぐこともありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は推進会議は開催していません。事業所での取り組みや活動を報告しご意見があった時は参考にしながらサービスの向上に努めています。	感染症の流行により書面会議を開催し、全家族に議事録を送付している。活動報告や入居者情報、受診や面会方法の変更、新型コロナウイルス感染症の対応なども記載しているが事業所の報告が中心となっている。	普段得られた家族の意見や質問を会議の議題に取り入れたり、家族や地域に役立つ情報資料と一緒に送るなど書面会議の更なる充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時や電話でのやり取り時に相談、助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいます。	現在は管理者が市役所を訪れる機会はないが、メールで情報提供を受けて分からないことがあれば電話で確認するなど、すぐに相談できる関係を築いている。アセスメントに関するオンライン研修案内を受け、参加を予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備し、休憩室にも掲示し毎月の委員会でも確認をし身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、入職時研修や内部研修で確認している。身体拘束にあたる事例はないが、毎月不適切ケア防止委員会を開催してスピーチロックについても学んでいる。勉強会資料を更に分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の不適切ケア防止委員会で資料を作成配布し確認を行いすべての職員が注意を払い防止に努めています。年に2回事業所全体での委員会を開催し啓発に取り組んでいます。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社のeラーニングで学んだり、実際に後見人さんがいる入居者さんがおり直に学ばせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明し一区切りごとに不明な点はないか確認しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置しています。契約時に苦情の窓口について説明しています。ご家族様連絡ノートでご家族の思いを職員間で共有しています。	面会時や電話で意見や要望を聞き取り「ご家族様連絡ノート」に記載し、パソコン上でも個別に情報を管理している。毎月「ほのぼの柘」を作成し、行事に合わせて利用者の写真や本人の手紙、職員からの個別メッセージを家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見や日々の業務中の意見を聞き、業務マニュアルの変更や役割分担をしています。	通院や入浴の時間配分など日常業務に関する意見や提案を反映し、休憩時間を変更したこともある。職員は委員会やブログ、ディスプレイなどの係を交代で担当し、お互いに意見交換しながらより良い運営やケアにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の引き上げや資格支援制度、休日を増やすなど代表者は努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニング研修やオンライン研修を導入し研修の機会があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、交流の機会はあるが現在感染予防の為行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為本人が不安を口にすることは少ないですが表情などを確認し安心できるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご家族のお話も聞きケアプランに反映するなど関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をする機会を多く持つようにしご本人、ご家族の望みを取り混ぜながら社会資源も視野に入れ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り寄り添い、できること、できない事を見極めながら基本理念の通り共に生活する関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応が困難な時はすぐにご家族に相談しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく電話を使えるよう配慮したり、条件はありますが面会も実施し、再度面会に来られるようお声掛けています。	感染症流行前は近所に住んでいた方や宗教関係の方が来訪したり、個別支援で馴染みの場所に出かけていた。現在は電話や手紙で交流を継続している利用者もいる。利用者の好きな名産品を家族や職員が購入して味わうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め座席に配慮するなどし皆でレクレーションをしたり関わりが持てるようにしています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも連絡があれば相談や支援の対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い話をしたり、会話が困難な場合はしぐさや表情、行動を見て意見の把握に努めています。	現在は、会話や簡単な問いかけで思いや意向を把握できる利用者が多い。趣味や嗜好が変化すればアセスメントシートの備考欄に記入しているが、全員の情報が充実しているとはいえない。	アセスメントシートの備考欄を活用し、全員の趣味や嗜好などの情報を充実させるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報、入居後ご家族からの情報などを職員間で情報共有し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活の流れや出来事を記録し情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでご家族の要望、一人一人の現状をふまえて意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成できるようにしています。	アセスメントシートで全職員の意見を集約し、毎月のモニタリング情報と家族の意向を反映させて3か月ごとに介護計画を作成している。変化に応じてケース記録にサービス内容の番号を入力し、介護計画の見直しに活かしたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを個別の介護記録に入力し職員全員に申し送られるようにシステム設定し情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じその時のニーズに応じられるよう職員の休憩時間を変更したりと可能な限り臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮した上で地域の保育園との交流を少しずつ再開する等、暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の要望を優先し、協力病院への通院支援の他、往診があり個別の受診記録を作成し適切な医療を受けられるよう支援しています。	協力医療機関の受診は事業所で支援している。皮膚科と歯科は、随時往診を受けている。かかりつけ医を家族と受診する時は、メモ書きや温度版の写しを渡して適切な医療支援につなげている。受診状況は個別に記録している。	

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の訪問は中止しているが、何かあった時は協力病院の看護職員へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書の持参、退院時は説明の席への同席、看護添書の受け取りなど情報交換に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し了承を得た上で契約をしています。	利用開始時に、重度化の指針に沿って口から栄養が摂れなくなったり常時医療行為が必要になった時は対応が難しいことを伝えている。看取りは実施していないため、体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、急変や事故発生時に備えて事業所に緊急マニュアルを掲示し確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在地域の方の参加はありませんが、全職員が昼、夜想定で火災の訓練は実施済。水害時、地震時それぞれ避難先を決めており町内会、民生委員の方とも共有しています。	昼夜の火災を想定した自主訓練を実施している。感染症の流行で地域住民の参加が無いため、地域との協力体制を再確認する予定である。地震時のケア別対応について話し合い、記録を整備したいと考えている。	感染症の収束状況を見ながら、職員の救命講習の受講を計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修で学び、誇りを損なわないような対応、声掛けを心掛けています。呼びかけは苗字にさんと統一しています。	言葉かけに関する研修を行っている。利用者のプライバシーに関する内容は、部屋番号やアルファベットなどで言い換えている。書類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を言いやすいよう日頃から関係の構築に努め自己決定に委ねるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその日の体調やペースに合わせてできる限り自由に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカット、行事の時は希望によりネイルやメイク、御着物を楽しんで頂いています。毎朝の更衣時にコーディネートに一言アドバイスさせて頂くこともあります。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや、盛り付け、後かたづけ等共に行っています。又食べたい物をリクエストして頂き、献立を決めてもらったり宅配弁当で好きなメニューを選んでいただくこともあります。	毎月フリーメニューの日を設け、利用者希望のビーフシチューやパン食など好みの食事を楽しんでいる。寿司などの出前やホットケーキ、お汁粉などのおやつ作りも日常的に行われており利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量は毎食記録しており摂取量が少ない方はこまめに提供したり水分ゼリーを提供したりと配慮しています。お粥、トロミ、刻みなど一人一人の状況に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科から指導を受け起床時、毎食後支援を行っています。状態によっては往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアからご本人の状態を把握し昼、夜間で使用の物を変えたり、一人一人の排泄間隔に合わせてトイレ誘導を行っている。	排便確認表と温度版に排泄を記録し、パソコン上でも管理している。自立している利用者もいる。日中はトイレでの排泄を支援しており、夜間のみベッド上で排泄用品を交換する場合もある。個々にあった声かけ誘導を行い失敗を少なくし、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意したり、食事の工夫も行いながら医師から処方された薬も服用し予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒まれた場合は時間をずらす等工夫している。また、汚染時等は入浴日でなくともシャワー浴や足浴を行っている。	一人当たり週2回の入浴支援を午前・午後の時間帯で行っている。一番風呂など利用者の希望を汲んでいる。シャワー浴の場合もある。入浴剤や湯上りの飲み物なども利用者の入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて休息されています。訴えることができなくても表情などを観察しこちらから促すこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がきちんとできるよう支援しています。変化があった時はかかりつけ医にその都度報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意志や事前にご家族から頂いた情報等を元に得意な事、出来ることを見極め支援しています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外部の方との接触がない散歩や畑仕事、花壇の手入れなどにとどめています。	天候の良い日は、ほぼ毎日車椅子の利用者も含め近隣の公園や事業所周辺を散歩している。畑仕事や花壇の手入れなど外気に触れる機会を設けている。感染症の流行が落ち着けば以前行っていた花見や紅葉見学、個別の外出なども再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、使用する機会がない為行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は対応しており職員から促すこともあります。面会ができなかった時期は行事の写真と共に手紙をご家族へ宛てていました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りを変えたり、季節行事を行い季節を感じて頂けるよう工夫しています。施設内の温度、湿度にも気を配りチェック表を作り加湿や換気を行っています。	回廊式の建物になっており、廊下やリビングは光庭からの陽射しで明るく、広々とした空間になっている。ひな祭りの飾りなど、季節の装飾を利用者で行っており季節感を感じることができる。廊下の写真コーナーには利用者の行事の写真などが飾られており、温かみを感じることができる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でテレビを見てくつろげるスペースを作ったり気の合った方同士がお喋りをできるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の馴染みの物を持参して頂いたり、お孫さんの写真を飾ったり、ご希望のない方は職員手作りの花や額を飾るなど落ち着いて過ごして頂けるよう努めています。	各居室にはクローゼットが備え付けられている。テレビや仏壇、宗教関係の物やタンスなどの家具類、加湿器や時計などを持ち込んでいる利用者もいる。壁面には誕生日カードや家族写真を飾っている利用者もあり、一人ひとりに合った居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており危険がないよう物の配置に気を配っています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホーム株 2階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0193600350-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の影響で外出や地域交流は自粛をしておりますが個別での散歩や畑での作業、ガラス越しの地域園児との交流などできる活動を継続しています。ホーム内でも季節を感じられるよう装飾や季節の行事を毎月開催しています。一人一人のペースや好みを尊重しホームでの生活がその人らしく暮らせるよう共に生活を目指しています。
また、日常の様子をご家族様にお伝えできるよう、通信の発行やブログも活用しています。近隣に協力医療機関があり冬でもロードヒーティングが備わっていますので安心して通院することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に目の届くところに掲示し実践を心掛けております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり実践できていませんでしたが昨年ガラス越しに園児との交流をすることができました。広報や町内会からの毎月のお便りを利用者様にも目を通してもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には挨拶をし近況を聴くなどしています。様子に変化の見えた時は包括支援センター繋ぐこともありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は推進会議は開催していません。事業所での取り組みや活動を報告しご意見があった時は参考にしながらサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時や電話でのやり取り時に相談、助言を頂き協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備し、休憩室にも掲示し毎月の委員会でも確認をし身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の不適切ケア防止委員会で資料を作成配布し確認を行いすべての職員が注意を払い防止に努めています。年に2回事業所全体での委員会を開催し啓発に取り組んでいます。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社のeラーニングで学んだり、実際に後見人さんがいる入居者さんがおり直に学ばせて頂いています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明し一区切りごとに不明な点はないか確認しています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置しています。契約時に苦情の窓口について説明しています。ご家族様連絡ノートでご家族の思いを職員間で共有しています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見や日々の業務中の意見を聞き、業務マニュアルの変更や役割分担をしています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の引き上げや資格支援制度、休日を増やすなど代表者は努力しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニング研修やオンライン研修を導入し研修の機会があります。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、交流の機会はあるが現在感染予防の為行っていません。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為本人が不安を口にすることは少ないですが表情などを確認し安心できるよう関係づくりに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご家族のお話も聞きケアプランに反映するなど関係づくりに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をする機会を多く持つようにしご本人、ご家族の望みを取り混ぜながら社会資源も視野に入れ対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り寄り添い、できること、できない事を見極めながら基本理念の通り共に生活する関係づくりに努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応が困難な時はすぐにご家族に相談しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく電話を使えるよう配慮したり、条件はありますが面会も実施し、再度面会に来られるようお声掛けしてます。文通を長年されている方にはハガキの購入やポストへの投函を共に行っています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め座席に配慮するなどし皆でレクレーションをしたり関わりが持てるようにしています。居室に居ることが多い方は声掛けをし関わりが持てるよう支援しています。			

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡があれば相談や支援の対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い話をしたり、会話が困難な場合はしぐさや表情、行動を見て意見の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報、入居後ご家族からの情報などを職員間で情報共有し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活の流れや出来事を記録し情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでご家族の要望、一人一人の現状をふまえて意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを個別の介護記録に入力し職員全員に申し送られるようにシステム設定し情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じその時のニーズに応じられるよう職員の休憩時間を変更したりと可能な限り臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮した上で地域の保育園との交流を少しずつ再開する等、暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の要望を優先し、協力病院への通院支援の他、往診があり個別の受診記録を作成し適切な医療が受けられるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の訪問は中止しているが、何かあった時は協力病院の看護職員へ相談しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書の持参、退院時は説明の席への同席、看護添書の受け取りなど情報交換に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し了承を得た上で契約をしています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、急変や事故発生時に備えて事業所に緊急マニュアルを掲示し確認しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在地域の方の参加はありませんが、全職員が昼、夜想定で火災の訓練は実施済。水害時、地震時それぞれ避難先を決めており町内会、民生委員の方とも共有しています。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修で学び、誇りを損なわないような対応、声掛けを心掛けています。呼びかけは苗字にさんと統一しています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を言いやすいよう日頃から関係の構築に努め自己決定に委ねるようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその日の体調やペースに合わせできる限り自由に過ごして頂いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカット、行事の時は希望によりネイルやメイク、御着物を楽しんで頂いています。毎朝の更衣時にコーディネートに一言アドバイスさせて頂くこともあります。			

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや、盛り付け、後かたづけ等共に行っています。又食べたい物をリクエストして頂き、献立を決めてもらったり宅配弁当で好きなメニューを選んでいただくこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事は毎食記録しており摂取量が少ない方はこまめに提供したり水分ゼリーを提供したりと配慮しています。お粥、トロミ、刻みなど一人一人の状況に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科から指導を受け起床時、毎食後支援を行っています。状態によっては往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々のケアからご本人の状態を把握し昼、夜間で使用の物を変えたり、一人一人の排泄間隔に合わせてトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔の把握に努め水分量に注意したり、食事の工夫も行いながら医師から処方された薬も服用し予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒まれた場合は時間をずらす等工夫している。また、汚染時等は入浴日でなくともシャワー浴や足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて休息されています。訴えることができなくても表情などを観察しこちらから促すこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がきちんとできるよう支援しています。変化があった時はかかりつけ医にその都度報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意志や事前にご家族から頂いた情報等を元に得意な事、出来ることを見極め支援しています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外部の方との接触がない散歩や畑仕事、花壇の手入れなどにとどめています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、使用する機会がない為行っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対応しており職員から促すこともあります。面会ができなかった時期は行事の写真と共に手紙をご家族へ宛てていました。文通に必要なハガキの購入やポストへの投函を共に行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りを変えたり、季節行事を行い季節を感じて頂けるよう工夫しています。施設内の温度、湿度にも気を配りチェック表を作り加湿や換気を行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でテレビを見てくつろげるスペースを作ったり気の合った方同士がお喋りをできるよう配慮しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の馴染みの物を持参して頂いたり、お孫さんの写真を飾ったり、ご希望のない方は職員手作りの花や額を飾るなど落ち着いて過ごして頂けるよう努めています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており危険がないよう物の配置に気を配っています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム 柘

作成日：令和 4年 2月 14日

市町村受理日：令和 4年 2月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	書面による運営推進会議の内容が事業所からの報告のみとなり御家族様の意見など反映されていない。	書面会議であっても事業所からの発信のみでなく、御家族様や地域との意見交換ができる運営推進会議を目指したい。	事業所からの情報発信の継続の他、2年に1度は御家族様にアンケートを取る。 普段得られた意見や質問を議題にした会議にする。 議事録と一緒に職員の勉強会の資料等添付する。	3ヶ月
2	23	入居時の趣味や嗜好の情報はあがるが入居後に趣味や嗜好の変化があった際の記載が残っておらず情報の共有が充分と言えない。	情報の収集とその活用ができるようアセスメント方法を見直し一人一人に沿った支援ができるようにしたい。	アセスメントシートに趣味嗜好欄を追加する(実施済み)変化があった時はこまめに更新を行う。	1ヶ月
3	35	全職員が3年に1度程度救命講習の講習を受講していない。	全職員が順次救命講習の受講を開始したい。	感染症の状況をみながら苦小牧市で開催されている救命講習を受講する。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。